

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572000489		
法人名	社会福祉法人聖水会		
事業所名	グループホームおすず		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北5484番地1		
自己評価作成日	平成22年8月12日	評価結果市町村受理日	平成22年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosisip/infomationPublic.do?JCD=4572000489&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosisip/infomationPublic.do?JCD=4572000489&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年9月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域との交流を大切にしている。地区防災協力員の方達も施設見学に見え、利用者の暮らしぶりを見て頂く事で施設を理解して頂いた。これからも近隣に住む人達と、触れ合う機会を積極的にやっていく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「何事も利用者と一緒に」をモットーに寄り添う介護を徹底して実践している。経験豊富な管理者の介護に対する思いに職員も共感し、利用者の思いをありのままに受け入れ支援するとの思いは理念と同じく、ケアのあらゆる場面で生かされている。設立当初からの利用者のレベルの低下も見られず、他施設から入居された方が車いすから杖歩行に移行するなど、機能低下の抑制にもつながっている。また、ホーム内には自慢の場所があり、食堂から続く廊下のドアを開けると遠くには山々が連なり、目の前には保育園、公民館が隣接し、道路を行き交う人達とあいさつを交わしたりと、その空間が地域とのつながりを日常で感じる場となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが理念を理解しようと、ケア会議で話し合いケアの質の向上と統一を図っている。	管理者自らが理念に基づいたケアを実践しており、職員もその後ろ姿を見ながら思いをしっかりと受け継ぎ、寄り添う介護をしている。利用者に対して、「ちょっと待って」の言葉は禁句としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の敬老会、盆踊り、保育園の行事等に参加している。散歩や公道に面した戸を開放する事で、通行する近隣者との日常的な挨拶が活発にできている。	地域のガソリンスタンドやスーパー等、ホームはもとより、職員も利用するなど地域とのつながりを大切にしている。今年の地区の敬老会からは、都農町の他地区から入居している利用者も含め全員に、招待状が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの相談にのったり、アドバイスをしたりすることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告を行い、質問、意見をもらうようにしている。又、家族会との合同での会議も開催された。年1回は、推進会議、家族会、共に会議を開催する。	2か月ごとに開催されており、評価結果についても改善策が話し合われ、サービスの向上へと結びついている。家族会との合同会議をホームで開催したことで、利用者の暮らしぶりを目の当たりにし、ホームへの理解もより深められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題解決に向けて連携を図っている。利用者の暮らしぶりも伝えている。	保護課を中心に定期的、又は必要に応じて情報交換を行っている。問題があれば行政にすぐに相談し、担当者にも適切な対応をしてもらえる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を事業所の中で実施している。職員の見守りの徹底、外出しそうな様子に気付くとさりげなく声をかけ一緒についていく。ご本人の思いが叶うまで、自由な暮らしを支えるようにしている。	鍵を掛けることのこのへい害を管理者、職員は理解しており玄関は施錠していない。利用者が出て行かれる時は、納得されるまでとことんつきあうなど、利用者の気持ちに合わせたケアがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会要綱を定めて随時勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会ある毎に職員への説明を行っている。事業所でも利用者が日常生活自立支援事業と成年後見制度の支援を受け協力者となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、丁寧に詳しく説明している。重度化等の対応、方針も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、訪問時、手紙等で意見、要望等を問いかけ、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	利用料支払い時や来訪時に、管理者が状況報告を行い意見を聞くようにしている。遠方で来訪の少ない家族には、便りと共に細かな状況を手紙に書き、来訪へとつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、ケア会議で意見を聞くようにしている。問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	所長、管理者は、職員は皆平等との思いで職員に接している。意見や要望はいつでも聞いてもらえ、まずは実践し検討を重ね改善をしていく体制が出来ている。所長とのヒアリングも年1、2回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が参加できるようにしている。研修報告は復命にて会議等で報告し、全職員が閲覧し捺印するようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会があり、その中でスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。また、交流の中で親睦を深めたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に会って心身の状態や思いに向き合い、困っていること等を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞き、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に来てもらい短時間でも過ごすなど、除々に馴染んでいくようにしている。早急な対応が必要な方には他の事業所のサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動に耳を傾ける態度を身につけ、不安、喜びなどを知る事に努め、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、文書にて日頃の様子を報告している。面会時にはご本人と家族がゆっくりと過ごせるように場面づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に自宅訪問したり、姉妹に会いたいと言われた時はお連れしたり、ホームにも友達等がお見えになり長話される事もある。	ほとんどの利用者が地元出身で、管理者も長年地域福祉の仕事をしていた関係から、知人、友人等の来訪者も多く、楽しい時間を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について把握し、心身の状態や気分、感情で日々時々変化する方、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を提供し情報交換を行い、時々会いに行ったり、又、家族等がいつでも遊びに来れるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し量り、それとなく確認している。意思疎通が困難な方には、声かけによる反応、表情から汲み取り把握している。	散歩や入浴時の会話の中で気づいたり、把握が困難な場合には寄り添うことで意向をくみ取っている。利用者の思いはすべて受け入れ、抑制させないケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者の、生活歴や個性等を把握できるように家族等から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、行動、動作から感じとり把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。	毎日の記録を基に、本人、家族の意向も反映させた介護計画となっている。3か月ごとの見直しと共に変化があった場合は、随時の見直しを行っている。町主催のケアプラン研修会が近日予定されている。	介護計画書をより連動したものにするために、ケアチェック表等に職員の気づきの一言を書くなどの工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄状況等、身体状況等、及び日々の様子や本人の言葉など記録。個別記録を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区で行われる行事に参加。町の商店の一角を借りて、毎年地域の方の手助けを借りての祭りを楽しんでいる。協力施設の行事参加、マイクロバスを借り外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行している。	ほとんどの利用者が町立病院を掛かりつけ医としている。急変時や夜間時の対応もしてもらえる関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいたことがあれば、ただちに看護職、家族等に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に家族、医師と話す機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う対応として、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	入居時の説明の時から家族との話し合いはしている。対応ができるぎりぎりまでは、ホームで看るという合意になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年1回の救急法の勉強会(実技含む)を実施し、体験、体得、習得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回行っている。また、地域の方々に施設見学を行い、地区防災協力員の連絡網を作成し協力体制を築いている。	夜間時の対処法を身につけることが第一の方針を持っており、全ての訓練が夜間に実施されている。地域の協力で、地区防災協力員の組織も作られ、次回の訓練では参加協力を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時は、さりげないケアを心がけたり、自己決定できる言葉かけをするように、会議等で確認している。	利用者の尊厳を重んじた介護を職員は実践している。管理者は、日々のケアの中で、接遇、所作の心得を職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示できない場合であっても、表情、行動、反応を注意深くキャッチしながら、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。日々様子を観ながら、体調に配慮し、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、外出時など、基本的には本人の意向で決めている。自己決定できない方には、職員と一緒に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めるようにしている。また、調理、片付け等も利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。	一人ひとりの摂取状態に合わせた食事形態となっている。毎日利用者とチラシを見て、好みを聞き、献立が立てられるため、ほとんどの方が完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取を把握している。個別に主治医より高カロリー補助食品を出してもらっている方もいるが、嗜好や食べやすいもの等で工夫している。食事量も体重減の方もいる為、Drと相談しながらカロリー調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所にて口腔ケア、自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方は毎食後の支援を行い、清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意、便意のない方は時間的トイレ誘導を行い、日中はトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄サイクルを職員は把握しており、個別の排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、十分な水分補給と腸の動きを良くするために、散歩、体操等を行い、身体を動かすことの大切さを常に意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認して入って頂いている。ゆっくりと浸りたい方にもそのように対応している。	ホームでは毎日入浴を行っており、利用者は半数ずつ、一日おきの入浴となっている。ゆっくり入りたいから最後でいい等の希望もあり、思いに沿った対応をしている。車いすの方も職員2人体制で介助し、ゆったりと湯船につかれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。眠剤を飲まれている方、睡眠状況を把握し日中の活動の妨げになっていないかを確認する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、処方箋を一人ひとり整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の有する力を引き出すよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。外出、行事参加等の楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族等にも外出の支援をお願いしている。戸外に出かける等、積極的に外出できるようにしている。	近隣の観光地や神社に出かけたり、法人内の介護老人福祉施設にも交流を兼ねて訪問している。それぞれの利用者に合わせて弁当を持参して行くなどの工夫もみられる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所で管理している。利用者、外出時には自分でお金が出せるよう手渡すなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話や手紙が出せるよう支援している。住所等は職員が書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品は利用者にとって懐かしく感じたり使いやすい物を選んで置いている。アルバム等も置いている。	食堂を含む広間は自然の風が心地よく、それぞれが思い思いの場所で過ごしている。壁には栗やすずき、紅葉などの飾り物、花瓶には彼岸花も生けられ季節を感じられる工夫がされている。不快な匂い、音もなく快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	戸を開放して椅子を置くことで、自由に外を眺めたり、仲間同士でくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真等、思い出深い品々が持ち込まれ、居心地のよさに配慮している。	一人ひとりの性格に合わせ、それぞれ個性豊かな部屋作りがされている。希望に沿ってベッド、畳があるが、畳の下にカーペットが敷かれ、つまづき防止と、清潔のための工夫もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり物の配置に配慮している。		